

令和5年度 第3回 「淡路島観光戦略会議」議事要旨

日時：令和6年2月1日（木） 16:00~16:55

場所：淡路広域消防ビル3階 多目的ホール

出席者：淡路県民局長、洲本市長、南あわじ市長
淡路市長、淡路島観光協会会長

議題（1）令和5年度の重要な取組及び主な取組の進捗状況報告
について

事務局から資料1について説明

①報告の方法について

【構成員】

- ・ 資料の作り方だが、今年度の取組状況は分かるが、それぞれに目指す目標があり、どこまで進捗しているかが分かるようにしてほしい。

【構成員】

- ・ もう少しまとまった、集約版の資料の方が分かりやすい。

【構成員】

- ・ 次年度も、重要な取組の進捗状況報告があるので、事務局で報告のやり方を検討してほしい。

②観光プログラムについて

【構成員】

- ・ 報告内容が取組のアピールになっているが、観光プログラムの造成であれば、数よりも旅行者にとって、体験して楽しい、喜ばれるような視点でプログラムを磨き上げることが必要。例えば、収穫体験の延長として、調理して、海や畑を眺めながら、その場で食べることができるようにすれば、プログラムとしてレベルアップする。プログラムが磨き上げられれば、施設のブランド化にもつながるので、観光協会としてリードしていく必要がある。AWA J I 島博は、その成果をぶつける機会と捉えている。

③淡路島への交通アクセスについて

【構成員】

- ・ インバウンド獲得に向けて、東京や京都とどうやってつなげるか。東京からだど、徳島空港の利用促進がこれに当てはまると思うが、京都からの旅行者を獲得するために、現在1日に2便しか、淡路島に停留しない京都～徳島間のバスの停留便数が増えれば、京都から淡路島にも周遊してもらえる。
- ・ また、南あわじ市が実証実験しているオニオンバスを延伸して、JR 徳島→徳島空港→南あわじ市内→洲本港→関空につなげる。こうすると関空～徳島までが繋がることになる。各団体がやっていることを少し連携するだけで、利用者が使いやすくなる。

④景観の再構築について

【構成員】

- ・ 専門家にアドバイスを求めるだけでなく、住民・観光客目線での景観の再構築について、専門家からいただいた意見を成果物として出してもらいたい。

⑤ガイドについて

【構成員】

- ・ 観光協会として、3市を跨いでシームレスに案内ができるガイドの育成を次年度に進めていきたい。

⑥クルーズについて

【構成員】

- ・ 瀬戸内と一緒にいることが重要で、京都からの人が淡路島に来て淡路を起点にした、2泊3日の瀬戸内クルーズツアーを造成することも考えた方がいいと思う。

議題（2）日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)を活用した
評価指標の設定と推進について

事務局から資料 2-1,2,3 について説明

【構成員】

- ・ 各施策に当てはまる JSTS-D 項目を抽出し、積み上げ、評価すると理解しているのか。

【事務局】

- ・ 評価に客観性を持たせるために、JSTS-D 項目の趣旨を踏まえた自己評価と事業の進捗度に対する自己評価の 2 つの評価を行ったうえで、全体を評価する。

【構成員】

- ・ 資料 2-1 の裏面に「鳴門の渦潮」国際シンポジウムの開催とあって、C8 の JSTS-D 項目が当てはめられているが、当てはまる項目は C8 だけではないと思う。
「多様なガイド育成」に当てはまる項目を見ても、少しこじつけている感じがする。
- ・ JSTS-D 項目に該当する見体的な評価ではなく、アクションプランにはそれぞれ目的や目標があって、その目標をどの程度達成できているかを評価すべきではないか。

【構成員】

- ・ 本来であれば、JSTS-D の項目があって、それに当てはまる各所の施策を当てはめるのが基本的な使い方かと思うが、それをする
と実施主体が違うということと、各所の色々な取組をすべて当てはめないといけないことになるので、事務局が考えた案として、やっている取組が JSTS-D の理念を踏まえているかどうか、ある意味逆のアプローチになっている。
「鳴門の渦潮」国際シンポジウムが本当に C8 だけに当てはまるかという点に関しては、議論の余地があると思うが、ひとまずこの評価方法で実施していく中で、次年度以降に向けて改善を図っていき
たい。

→議題（2）について承認

議題（3）令和 6 年度淡路島総合観光戦略のアクションプランについて

事務局から資料 3,4 について説明

【構成員】

- ・ 資料4のNo6の「世界一の食の島の推進」の所管が南あわじ市になっているが、「世界一の食の市」ではなく、「世界一の食の島」である。元々「御食国プロジェクト」が県民局事業としてあったことから、具体的な中身までは未定だが、洲本農林水産振興事務所には話をし一緒にやっていくことになっている。

また、淡路島観光協会でも「創作料理コンテスト」を料理人の技術やモチベーション向上の事業として実施しているので、島内の色々な事業をまとめて連携するなどにより（世界一の食の島を推進していくうえでの）共同事業として位置付けてほしい。

【事務局】

- ・ 具体的な内容・調整については、これからだと思うが、現時点では南あわじ市からの提案だったので、所管を南あわじ市とした。令和6年度以降の具体的な取組内容については、提案していただきたい。

【構成員】

- ・ 各団体の取組をまとめて「世界一の食の島」を目指していくということで、異論がなければ、共同事業として位置付ける。

→議題（3）について承認

【構成員】

- ・ 令和6年度淡路島総合観光戦略のアクションプランについては、資料3のとおりとするが、現時点では予算要求の段階なので、議会の議決を経て、アクションプランの各事業内容を最終的に確定する。

議題（4）その他

【構成員】

- ・ 関空、神戸空港の国際線の増便に伴い、海上アクセスにも期待したいが、関空のポートターミナルの不便さの改善を働きかければと思う。元々、駅のすぐ裏にあれば便利とは言われ続けてきた。

- ・ 海航路やバス路線の情報を持っていたら教えてほしい。

【構成員】

- ・ 関空、神戸空港の増便に関して、県の関係者と話す機会があった。その中で、港をもっと使いやすくしてもらおう話があったが、誰が行動を起こすべきなのか手がかかりがない。

【構成員】

- 大きなパラペットを乗り越えなければならないため、関空の港は使いにくい。改善してほしいと行動を起こした。地元として働きかけていくことは大事だと思う。
- 関空からのバスについては、運転手がいなかったため、路線回復がしていない。こちらの受入体制の整備も大事だと思う。

【構成員】

- 神戸市と須磨港から交流の翼港、津名港への海航路の実証実験を行っているが、その成果を踏まえたい。

【構成員】

- 海航路に関しては、淡路島では、業者が手を上げてくれるかどうか課題。
- 高速バスに関しては、万博期間だけでもオープンドア化ができないかと考える。可否はともかく、働きかけはしていきたい。

以上